

3月20日（日）

（早川洋輔）

今日は山田町へ行き震災の被害を目の当たりしました。

被災地の状況は悲惨で家や施設はなくなり、亡くなられた家には赤く印がついている。



避難所では救援物資が届いているものの食べ物に偏りがあり不満の声も。物資の貯蓄はあるものの、これが長期戦になることは間違いなく、今の物資も底が尽きる事になるのでは。

今日道の駅でお会いした木村さんは姉の安否がわからないにも関わらず私達を歓迎し周りを励まし笑わせてくれています。

被災地の方々はお互いを思い、支えながら前を見ているんだなぁと感じた一日でした。

（中嶋優太）

天気:晴→雨

気温:8℃

体調:咽頭痛増

現在帰路の中腹。

強い雨が被災地への心配を募らせる。

今日は全てが衝撃的だった。

「はだしのげん」

それは爆弾を投下されたのかと目を疑う光景。



今日は8時に出発。

日々変わる被災地のニーズを考慮し、まず支援物資の詰め替えをした。

今日は

マスク、手指消毒薬、米、一般用医薬品、粉ミルク、靴下、手拭い、肌着、歯磨き粉、サッカーボール…

小学校教材用の岩手県の立体地図で状況把握、プランニング。

リアス式海岸地帯で起伏が激しいのが特徴だが、やはり被害の激しい気仙地区は平地が長く続いているような地形だった。

その瞬間はいきなり訪れた。

急に視界が開けた。

それは明るく爽快なものではなく、

がれきまみれで今までの常識など通用しない灰色の街。

屋根の上や川に沈む車、横たわる無数の電信柱や、柱を失った家屋の屋根が道を塞ぎ、砂煙が街を包む。

原型を留めず、辛うじて残る家や車には、若者の悪戯かと思わせる赤いスプレー

「X」の印

詳しくはわからないが、搜索済みを示す印、その結末を示す印なのか
いらぬ想像力がはたらく…

どっちにせよ、初めて見る光景。

しばらく息を吐くのを忘れていただろう。

坂を登り降りする度に、家が残る街と瓦礫だけの街のギャップに驚かされる。
人々を襲ったのは間違いなく自然の脅威。
しかしながらそれを食い止め、少なからず救いの余地を与えたのも自然だ。
同じ街でも、一軒ずれただけ、階が上がっただけで天と地。
お隣さんはまったくなし、4階の窓から流される船が見えたといった状況。
山田町というところの道の駅。
ここでまず救援物資を降ろした。
明るく笑顔で接してくれ、
「頑張ってます。」

少しでも明るくいかないとねと振る舞う影で小声で一言

「気がもたない…」

と本音を覗かせた。
住民と噛み合わない部分が出始め、精神的ストレスが問題だという。
そんな中、こんなものしかないがイチゴをくれた。
一番ビタミン、ミネラルを必要としている者からの援助。
身が引き締まる。

次は小学校。
ドラム缶に薪をくべ暖をとり、ジャージ姿の子供たちが行き交う。
ここでは整腸剤と下剤を降ろした。
炭水化物中心で、極端に減った運動量からくる便秘、底冷えする寒さと衛生環境からくる下痢か。
ノロウイルスが流行りはじめたと言うので、下剤使用の注意点を説明した。
尋常性乾癬を患う高齢者。衛生状態が症状の悪化を招き、見るからに痒そうだった。痒み止の外用を一本。
「大事に使います。ありがとうね。」

次は近くの公民館。
一週間が経つと、身寄りがある人はそちらに身を寄せ、罹患者は病院へ。
比較的健康状態の良い地域住民が協力し、工夫を凝らして生活する場所。
ここでは手拭い、肌着、靴下や歯磨き粉など。

食料はかき集めでなんとかしているとのこと。

ここでも

「粗末な物しかないですけど、お昼ご準備しますから。」

人間の優しさに感動し、お気持ちだけ受け取った。

杖をついたお婆さんが、女性に付き添われてやってきた。

家だけは無事だったが、身寄りがなく、足腰が悪いこの方は、自分ではどうすることもできなかつたらしい。

ライフラインを断たれた家に一人で、家にあるもので耐えていたらしい。「青森から。ご苦労さま。」

次は役場。

この周りは一帯を火災が飲み込み、役場だけが奇跡的に残った町だ。

薬剤師のニーズを調査。近くの小学校への派遣が決まった。

ここで歯の痛みを訴えるおじいさん。

診察券を見せてくれた。

「受付3/11 14:30」

治療の最中に地震が襲い、治療途中総出で避難したという。

もちろん歯医者さんは跡形も無い。

痛み止めを差し上げ

「我慢してたけど、痛くて痛くて…助かった」

要請があった小学校へ。

赤十字病院、国立病院などの派遣チームが診療を始めていた。

保健室が調剤室。

同効薬、規格変更、剤形変更が薬剤師仕事だ。

慢性疾患などの処方を受け付けていて、中にはすべて流され無かつた方もいたが、お薬手帳が重要なツールとなっていた。

震災直後の薬は、崩れた薬局から拾い集め、PTPの泥を洗って使用していたとのこと。

薬の供給は大分改善されてきたが、違う救護所からの重複投与、必要最低限な薬剤の絞り込み、薬剤師の体力、プライベートを考慮したローテーションなど、今後の長いスパンでみた場合の課題は残る。

でも、まずはなにより医療を受けられる環境が出来ていたことだけでも喜ばしい。

明日も同じ現場で協力する予定だ。
朝5時半出発。
頑張ります。